

資料2

その他説明資料

目 次

1	名古屋港審議会提出予定案件	
	名古屋港港湾計画の軽易な変更について -----	1 頁
	港湾環境整備負担金対象工事の指定について -----	2
2	国際競争力の強化に向けた取組について -----	3
3	親しまれる港づくりについて -----	5

名古屋港港湾計画の軽易な変更について

名古屋港港湾計画（平成27年12月改訂）の軽易な変更を行うものである。

1 軽易な変更の概要

中川運河の北支線において、「堀止緑地」と「広見憩いの杜」間のプロムナード等を整備し、周辺開発と連携して港湾環境の魅力向上を図るため、港湾環境整備施設計画及び土地利用計画を以下のように変更する。

(1) 港湾環境整備施設計画

中川運河緑地（北支線） 0.5ha【新規】

(2) 土地利用計画

今回変更に伴う中川運河全体の土地利用計画

土地利用区分	変更前	変更後
緑地	5.1ha	5.6ha (0.5ha 増)
港湾関連用地	44.8ha	44.6ha (0.2ha 減)



【 変更前 】

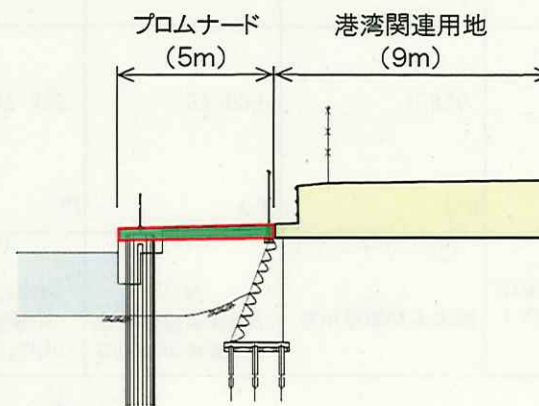


【 変更後 】

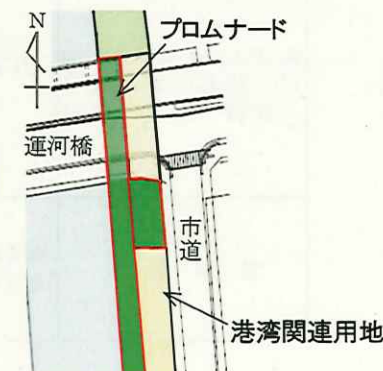
凡例	
	緑地（今回計画）
	緑地
	港湾関連用地



【 計画変更箇所図 】



【 ①プロムナード部 標準断面図 】



【 ②橋詰部 平面図 】

2 今後のスケジュール

令和5年1月 本組合にて名古屋港審議会専門部会に諮問
答申後、名古屋港管理組合公報に公告するとともに、国土交通大臣へ送付

港湾環境整備負担金対象工事の指定について

令和4年度の港湾環境整備負担金については、下表のとおりとするものである。

工事の種類及び名称	工事に要した費用	負担割合	工事に要した費用に負担割合を乗じた額 (a)	負担区域内の事業場敷地面積の合計 (b)	負担対象事業者の事業場敷地面積の合計 (c)	負担金徴収予定額 (a) × (c) / (b)	1㎡当たりの負担金額	工事内容
港湾環境整備施設の建設又は改良の工事	千円		千円	千㎡	千㎡	千円	円	
① 中川運河（堀止）緑地整備工事	18,815	1/16	1,176					緑地、広場、植栽、休憩所等の建設又は改良のための工事
② 楠広場整備工事	10,265	1/8	1,283	37,425	27,635	1,816	0.07	
小 計	29,080		2,459					
港湾環境整備施設の維持の工事	220,285	1/2	110,143	35,306	27,635	86,211	3.12	除草、施肥、樹木補植、清掃、附属施設の修繕等緑地維持のための工事
港湾における漂流物の除去等の工事	35,502	1/2	17,751	37,897	31,813	14,901	0.47	漂流物の除去及び処理のための工事
合 計	284,867		130,353			102,928	3.66	

今後のスケジュール

令和5年1月 本組合にて名古屋港審議会専門部会に諮問
答申後、名古屋港管理組合公報に告示

国際競争力の強化に向けた取組について

名古屋港は、コンテナ貨物、バルク貨物（ばら積み貨物）、完成自動車を取り扱う総合的な港湾であり、背後地域の「ものづくり産業」を強力に支援する「国際産業戦略港湾」の実現に向けた取組を進めている。

1 コンテナ取扱機能の強化

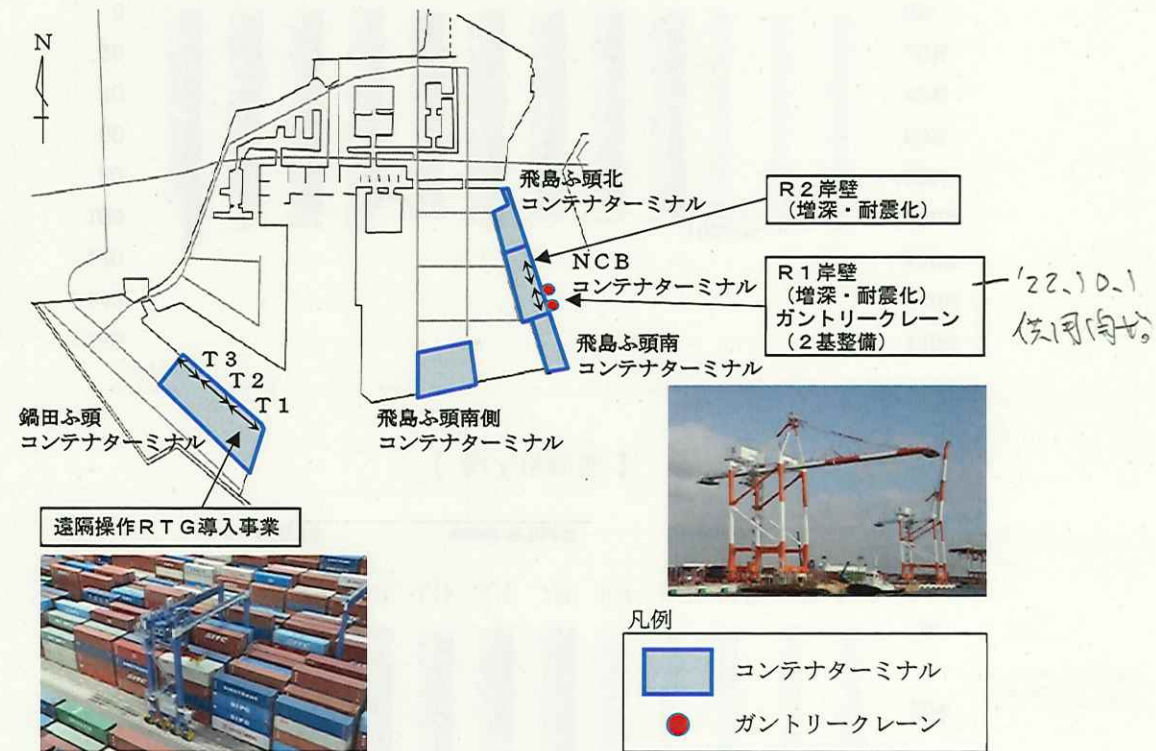
飛島ふ頭NCBコンテナターミナルにおいて、船舶の大型化等に対応するため、国は、岸壁の増深（水深1.2m→1.5m）及び耐震化に取り組んでおり、そのうちR1岸壁の改良工事が完了し、名古屋四日市国際港湾株式会社（以下「名四（株）」という。）が大型ガントリークレーン（22列対応）2基を設置して、令和4年10月1日に供用を開始した。引き続き、R2岸壁の早期完成に向け取り組んでいく。

鍋田ふ頭コンテナターミナルにおいては、ターミナル運営者である名古屋ユナイテッドコンテナターミナル株式会社（NUCT）により、遠隔操作RTG導入事業（40基、うち新規32基、改造8基）が行われており、令和4年4月にT3（10基）で運用が開始され、引き続きT2、T1への導入に向けて準備が進められている。

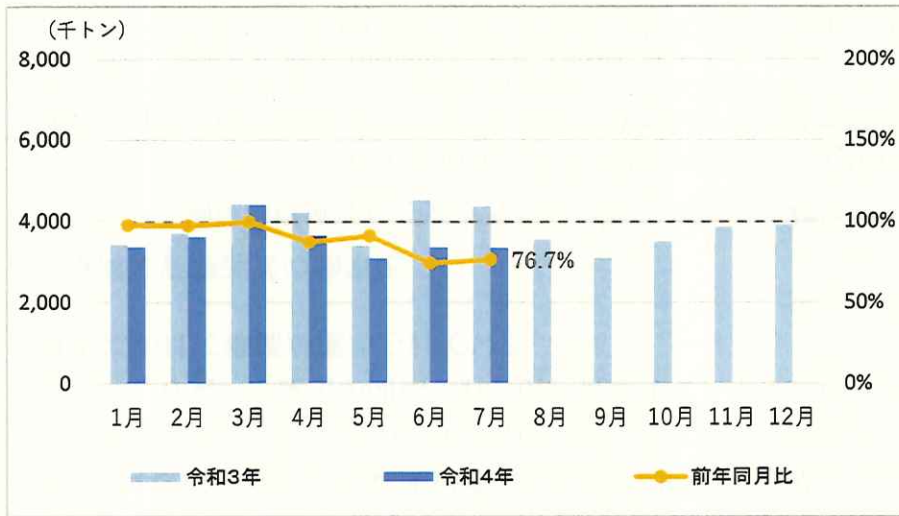
2 港湾の管理運営の効率化

コンテナ物流の環境変化や新たなニーズに迅速かつ柔軟に対応するため、令和4年4月より名四（株）の企画、集貨部門を機能強化し、コンテナターミナルのAIを活用した生産性向上や脱炭素化に向けた検討などを進めており、引き続き、更なる効率的なターミナル運営に向けて検討を進めていく。併せて、港湾の管理運営業務の効率化に向けて、名古屋港埠頭株式会社を本組合の行政機能を補完する団体として活用することを検討している。

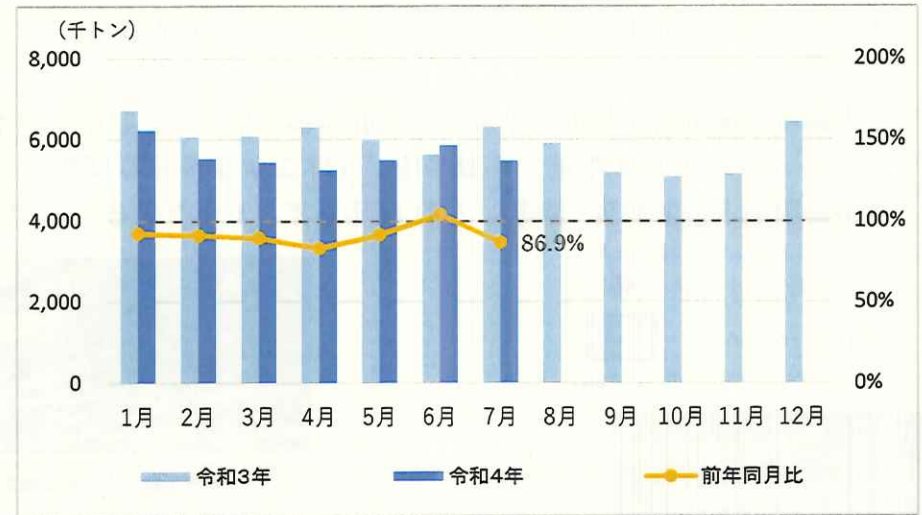
また、名古屋港及び本組合行政のデジタル化の取組を加速させるため、「DX推進計画」を令和4年内に策定し、年明けに公表するよう取り組んでいる。



【 参 考 】 最近の貨物動向（令和4年）

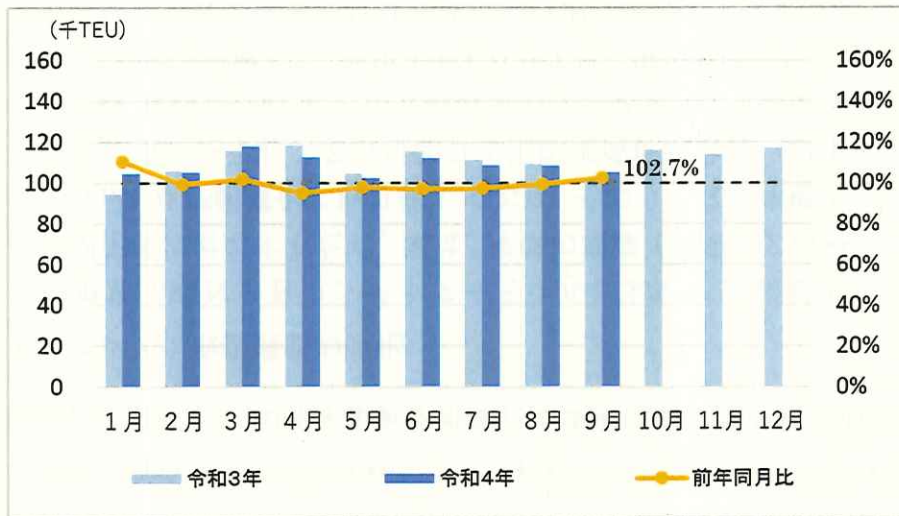


【 輸出貨物量 】

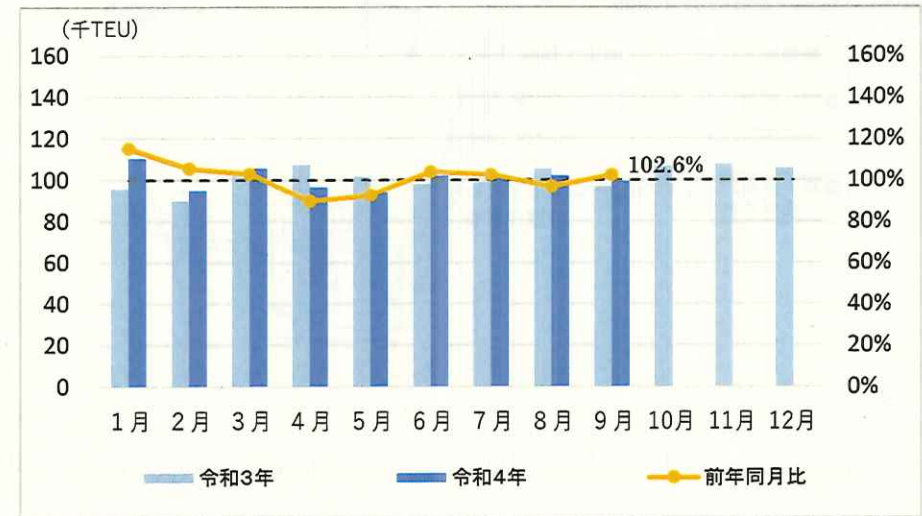


【 輸入貨物量 】

全体的に
減少



【 輸出コンテナ取扱個数 】



【 輸入コンテナ取扱個数 】

親しまれる港づくりについて

1 名古屋港水族館

(1) 入館者数（令和4年9月末日現在）

期 間	令和元年度	令和2年度（※）	令和3年度	令和4年度
4月～9月	136.5万人	47.0万人	66.5万人	113.9万人

※令和2年4月1日～5月24日 臨時休館

(2) 主な取組

- ・開館30周年記念事業として、過去の特別展のなかで好評を博したものを再現した特別展「見たい！見せたい！！あの特別展をもう一度」（10月8日～2月26日）や「名古屋港水族館30年のあゆみ」（4月26日～11月6日）を開催している。また、名古屋市と連携してクルーズ名古屋で行くバックヤードツアーを開催する。（12月3日、4日、11日予定）
- ・財源確保に向けた取組として、新たに希少な飼育生物であるエンペラーペンギンのオリジナルグッズ（換羽した羽根を利用したダウンマフラー等）を返礼品とするクラウドファンディングを実施している。（9月28日～10月30日）
- ・水族館やポートビル施設の回遊性を高めるため、ガーデン緑園総合案内所南側から水族館までの防潮壁に、飼育生物やポートビル施設を紹介する大型ラッピングを設置した。
- ・生物の調査研究については、アカウミガメの回遊経路解明調査を米国スタンフォード大学及びNOAA（アメリカ海洋大気庁）と共同で実施し、令和5年春の太平洋東部での放流に向けて子ガメの生育に取り組んでいる。また、同大学及びナショナルジオグラフィック協会から本調査にかかる助成金が令和4年度中に交付される予定である。



【 特別展 】



【 クラウドファンディング
（ダウンマフラー） 】



【 大型ラッピング(水族館) 】



【 大型ラッピング(ポートビル) 】

2 クルーズ船

令和4年のクルーズ船の入港状況については、9月末までに国内クルーズ船12隻の入港があった。

国内クルーズ船については、「名古屋港におけるクルーズ船受入の際の感染拡大予防マニュアル」により感染症対策を徹底し、船社・関係機関と連携しながら安全・安心な受入れを進めている。

外航クルーズ船については、感染症の影響により令和2年から寄港はないものの、国が感染症に関するガイドラインの作成に向けた準備を進めており、国の動向を注視し、適切に対応していく。

クルーズ船誘致の取組については、名古屋港外航クルーズ船誘致促進会議（事務局：本組合及び名古屋商工会議所）を開催し、同会議を通じ関係団体と連携を図りながら感染症の影響を注視しつつ実施している。

また、ガーデンふ頭において老朽化した3号岸壁の改良を進めているが、工程調整をしながらクルーズ船の受入れを行っている。

【クルーズ船入港状況】

令和4年9月末日現在

ふ頭別	令和元年実績	令和2年実績	令和3年実績	令和4年	
				実績（1～9月）	申込隻数（10～12月）
ガーデンふ頭	33隻	7隻	14隻	12隻	10隻
金城ふ頭	6隻	0隻	0隻	0隻	0隻
計	39隻	7隻	14隻	12隻	10隻

3 ガーデンふ頭再開発

ガーデンふ頭では、更なるにぎわいや新たな魅力の創出に向けて策定した「ガーデンふ頭再開発基本計画」（平成29年9月）に基づき、再開発に取り組んでいる。

こうしたなか、民間事業者等からのヒアリングや再開発の実現に向けた仕組みづくりの検討を進めるに当たり、幅広い助言や意見を得るため、有識者会議を設置し、令和4年9月1日に第1回会議を開催した。

今後は、開発事例研究などを踏まえた検討を行い、再開発が着実に実現できるよう取り組んでいく。



【ガーデンふ頭】

4 中川運河の再生

本組合は、中川運河の再生に向け、「にぎわいゾーン」を中心に様々な施策を実施している。

バーミキュラビレッジ前面のプロムナードについて、令和4年9月に工事着手した。また、堀止緑地と広見憩いの杜を結ぶプロムナードは、港湾計画の軽易な変更を行っていくなど、関係機関と整備に向けて調整を進めている。

昭和橋地区で実施していたにぎわい施設の公募については、令和4年7月に山和製麺株式会社（製麺工場及び飲食店）を事業予定者に決定した。

「中川運河再生計画」（平成24年10月策定、計画期間20年間）は、策定から10年が経過することから、その更新に向け、これまでの取組の点検・検証を名古屋市とともに進めている。

今後も、魅力ある中川運河への再生に向け、関係者とともに取り組んでいく。



【 中川運河 】



【 昭和橋地区 製麺工場及び飲食店 イメージ図 】



【 にぎわいゾーン拡大 】

5 金城ふ頭の交流拠点開発

金城ふ頭では、「モノづくり文化交流拠点構想」に基づき、名古屋市による交流拠点開発が進められ、国際展示場新第1展示館及びコンベンションセンターが令和4年10月1日から供用開始されている。

交流拠点開発が物流機能に支障をきたさないよう、名古屋市は交通案内看板の新設や歩行者デッキの整備等の交通対策を行い、現在、その効果を検証するための交通量調査を進めている。

本組合は、今後も交流拠点開発が港湾関係者の理解のもとで展開されるよう、引き続き、名古屋市と連携して取り組んでいく。



【 国際展示場新第1展示館 】



【 歩行者デッキ 】

